

## 1. 秋田県を取り巻く状況

自治体職員の減少が見込まれる中、行政サービスを維持するため、業務の効率化と生産性の向上を図る必要がある。

## 2. 業務環境における現状・課題・目指す姿

固定的でアナログな職場環境により生産性が低下していることから、コラボレーションツール\*を導入し、快適で生産性の高い業務環境を実現する。

(\*グループウェアやWeb会議、チャット等が包含されたデジタルツール)

### 現状（非効率な業務環境）

- 自席での仕事に制約される
- 打ち合わせや手続きは対面が中心
- 紙媒体や各課サーバ等にデータが分散しているため、検索に時間がかかる

### 課題（根本原因）

- モバイル非対応
- ライセンス不足
- 容量不足

### 目指す姿

- 時間や場所に制約されない快適で生産性の高い業務環境の実現
- フルオンライン化による移動コストの削減
- データ一元化による行政サービスの向上

## 3. 導入効果

**時間外勤務の削減目標：一人あたり年17h**

### 作業時間の短縮

- ・ 庁外での資料閲覧・編集や承認の実現（予算要求資料・検討会資料）
- ・ 資料作成に生成AI・共同編集を活用し作業を効率化（議事録等）

### 移動コストの削減

- ・ 申請・相談・調査業務へのWeb会議活用によるオンライン完結化  
（道路占用等の許認可事務における事前相談、福祉施設等の指導・監査）
- ・ 庁内や市町村との会議のフルオンライン化（本庁・振興局打ち合わせ、市町村会議）

### 情報共有の迅速化・高度化

- ・ 市町村・各種団体との連絡調整や災害対応などの多人数・広域での情報共有の迅速化  
（ふるさと納税とりまとめ（国報告）、市町村連絡会議、統計作成、発災時の被害調査）

## コラボレーションツールの導入により解消

■コラボレーションツール製品の選定（案）  
多様な働き方プロジェクトによる実証実験での評価を踏まえ、使用するコラボレーションツールの製品をGoogle Workspaceとする。

### 【主な機能】

- ▼モバイル（スマホ、タブレット等）対応
- ▼チャット・Web会議・グループウェアの連携
- ▼共同編集 ▼大容量のドライブ ▼生成AI

### 【主なスケジュール】

令和7年1月～2月  
" 2月～3月  
" 4月1日～  
" 4月～12月  
令和7年度中（計10回予定）

業者選定（12月補正 債務負担行為設定）  
新ツール利用環境構築  
新ツール運用開始  
既存機能の移行  
職員研修

※重複ツールは順次統合  
・ Logoチャット、Web会議 R6年度で廃止

### 【導入台数】

- ・ 一般職員 4,570台
- ・ 会計年度任用職員等 400台